

(2018年度) 第7回 応用地形判読士資格検定試験 一次試験問題

[午後の部]

試験実施の注意事項

この試験会場では、次に示す3つの資格検定試験を実施する。

地質調査技士資格検定試験／応用地形判読士資格検定試験／地質情報管理士資格検定試験

試験実施にあたっては、次に示す試験の実施時間、各試験共通の注意事項および受験する資格検定試験の注意事項を確認すること。

試験の実施時間

試験種類	午前の部	午後の部
地質調査技士資格検定試験	午前9時30分～午後12時30分	午後1時30分～午後3時30分 ※現場調査部門は口答試験を実施
応用地形判読士資格検定試験	午前9時30分～午後12時30分	午後1時30分～午後3時30分
地質情報管理士資格検定試験	午前9時30分～午後12時30分	なし

各試験共通の注意事項

- (1) 筆記試験は、全国統一試験問題として一斉に行う。
- (2) 試験開始後1時間は、退場を認めない。
- (3) 試験実施にあたり、落丁や乱丁のないこと、また印刷の不鮮明な点がないことを確認すること。
- (4) 試験中、机の上には、筆記用具、受験票、試験問題用紙、答案用紙、その他指定された文房具以外のものは置かないこと。また、試験中の飲食は禁じる。
- (5) 試験開始後は、参考書籍のほか、携帯電話など電子機器類の使用は一切禁じる。また、試験開始後は、原則として質問に応じない。
- (6) 試験終了後、この問題は持ち帰ってもよい。

応用地形判読士資格検定試験の注意事項

- (1) 問題は、A群から1問、B群から1問、選択すること。
- (2) 解答は、マス目入り答案用紙に記入すること。
答案用紙には、受験番号と選択した問題番号を必ず記入すること。
- (3) 試験問題の一部で使用している国土地理院発行の地形図は、上を北としている。
- (4) 試験に使用できる文房具は、鉛筆またはシャープペンシル／消しゴム／定規／三角スケール／拡大鏡 とする。

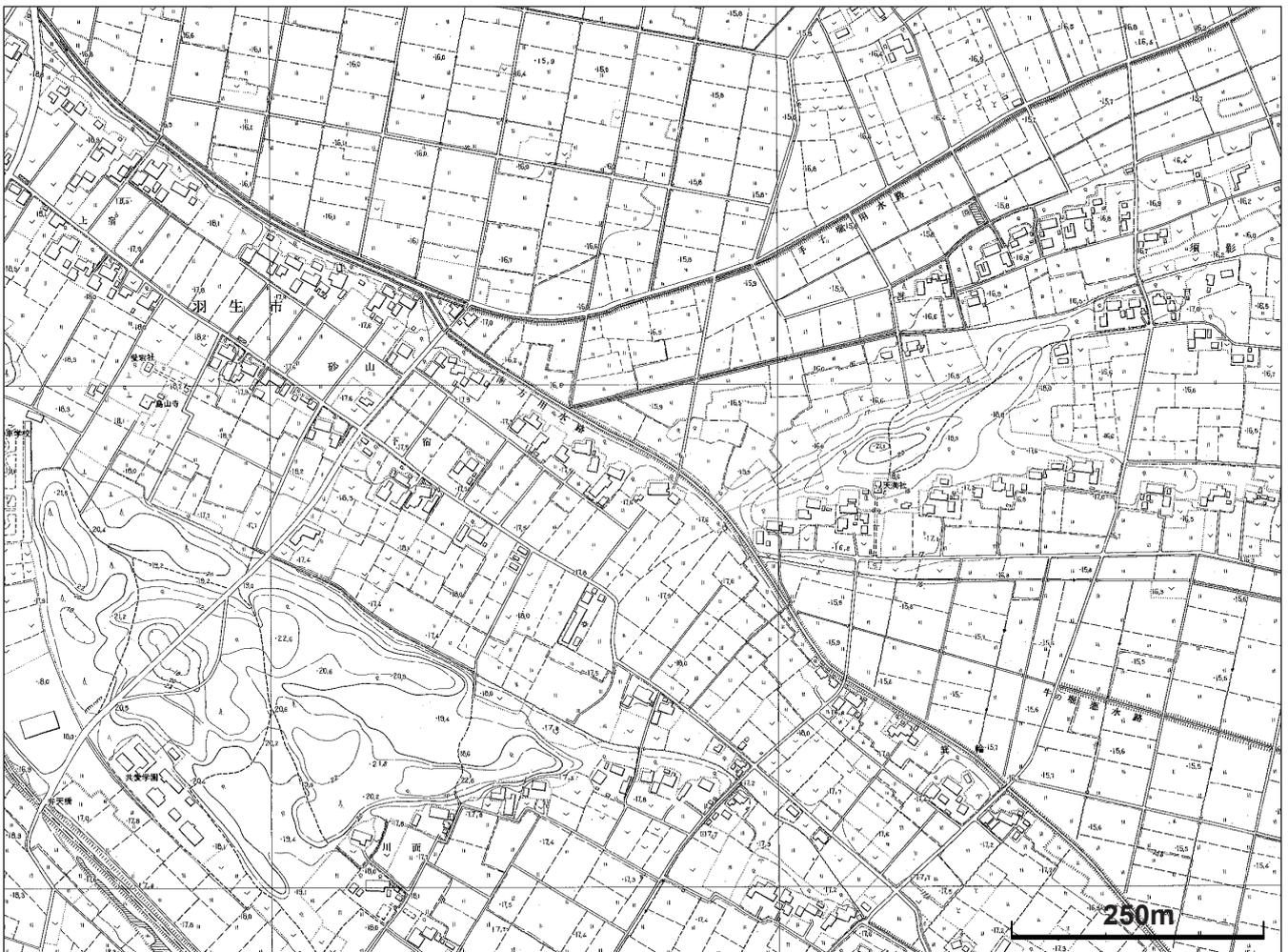
以上

《A群》

A-1. 湖の形成について、以下の設問に合計 800 字以内で解答せよ。ただし、人工的につくられた湖は除くものとする。

- わが国において、それぞれ異なる湖の形成過程を 4 つ挙げ、それぞれについて、湖が形成される原因と条件を具体的に説明し、現存する湖沼名を示せ。
- 形成された湖がすぐに消失せず、永い時間にわたり湖水が維持される条件を述べよ。

A-2. 下に示す地形図（昭和 43 年修正）を読図して、以下の設問に合計 800 字以内で解答せよ。



- 図幅全域を構成する主要な地形種を 4 つ挙げ、それぞれについて、分布の特徴および土地利用状況を述べよ。
- それぞれの地形種に戸建て住宅を建設したと仮定して、地震時に発生が予測される地盤災害の種類とその多寡について述べよ。

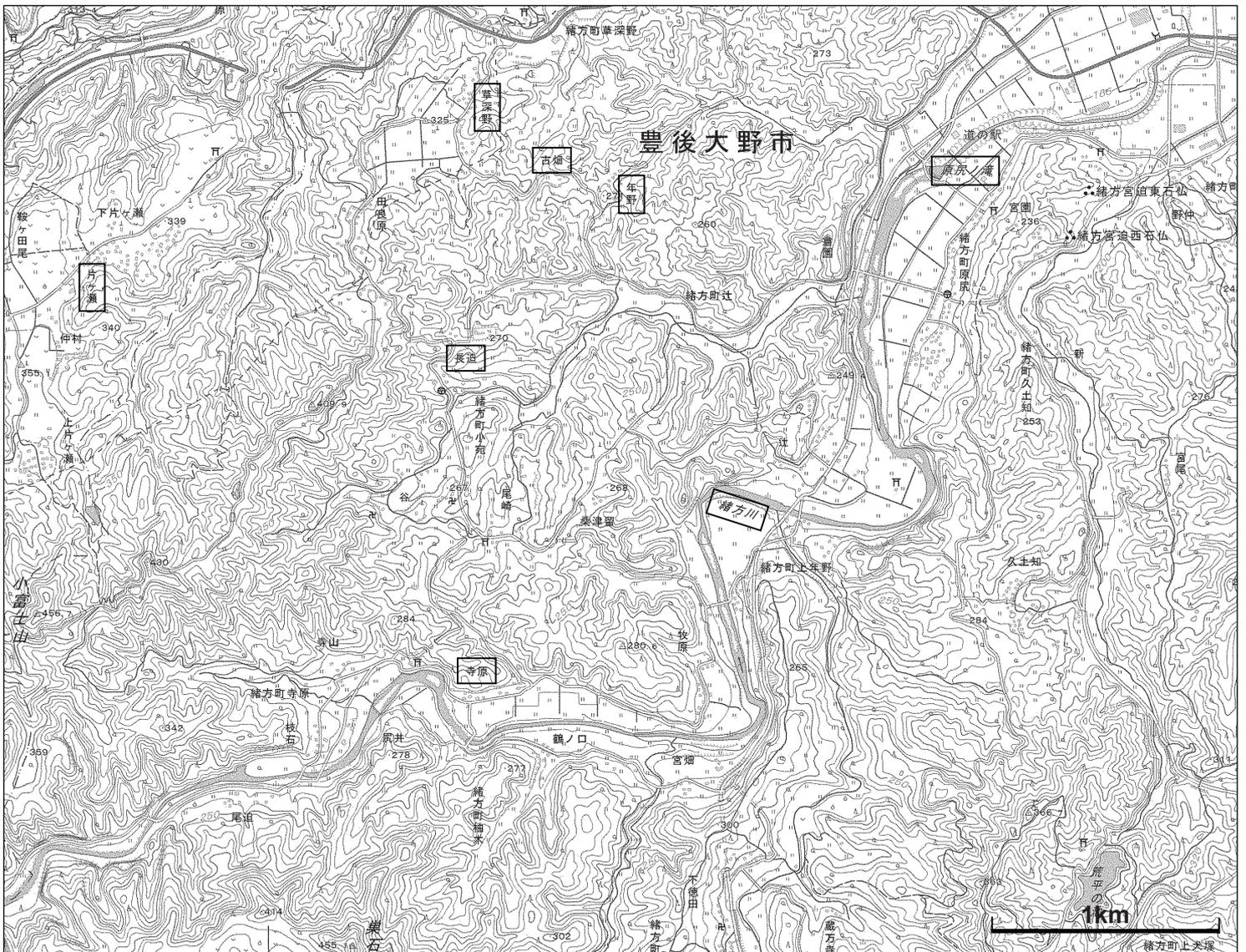
《B群》

B-1. 地すべり地形について、以下の設問に合計 800 字以内で解答せよ。

- a) 地すべり地形を構成する主要な地形種（微地形など）を 2 つ挙げ、それぞれの形成過程を述べよ。
- b) 地すべりの安定性を地形の特徴から推定する方法を 2 つ述べよ。
- c) 地形的には不明瞭であるが地すべりの可能性が考えられる地域において、切土工事ないしダム貯水をするとき、その安定性を評価するための地質調査方法と留意点を述べよ。

B-2. 次の補足説明を参考として下の地形図を読図し、以下の設問に合計 800 字以内で解答せよ。

補足説明：西部の「片ヶ瀬」集落や北部の「草深野」集落周辺の標高 320～360mに広がる平坦な地形は、阿蘇火山由来の火砕流の堆積面が残存したものである。図幅中央付近の「古畑」「年野」「長迫」などの集落周辺には、水田を示す地図記号が広く分布する。また、「原尻の滝」には、溶結凝灰岩が露出している。



- 「原尻の滝」の成因について述べよ。
- 「原尻の滝」より上流側、「寺原」集落付近までの緒方川の河谷の幅が下流側と同様に広い理由を述べよ。
- 緒方川左岸に広がる小起伏の地形の特徴について、傾斜、谷の入り方や分布、土地利用に留意して記述せよ。